

こどものうた弾き歌い指導における 副教材の活用について

—「指使いサブノート」導入の試みを通して—

仲 嶺 まり子

Application of Supplementary Materials to Teach Activities
by Singing While Playing the Piano:
Experience from Introducing Supplemental Notes for Fingering Technique

Mariko NAKAMINE

【要 旨】

本稿は、保育者養成における「こどものうた弾き歌い」指導時のレッスンの効率化と自主練習促進に向けての副教材作成および活用に関する研究である。

本学「器楽」科目の目標は、こどものうたの弾き歌い技術の修得であるが、ピアノ伴奏の指導において次のような問題を抱えていた。主に初心者学生の指使いが適切でないこと。指使いの指導に時間を要し、ピアノを弾く時間が十分に確保できないこと。指示された指使いを学生が留意せずに練習してくること等である。そこで、これらの問題の改善に向けて、こどものうた課題曲の指使いに関する副教材の作成に着手した。

副教材は、指使い考案の基本方針に基づき3チームで原案を作成し、サブノートとしてまとめた。その後平成21年11月より「器楽Ⅱ」「器楽Ⅲ」の副教材としての使用を開始し、その導入および活用の効果を検証するため、ピアノ非常勤講師と学生を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「導入効果があった(100%)」、「練習に役に立った(83%)」という回答を得ることができ、これらの結果から、指使いサブノート導入によるレッスンの効率化と自主練習促進の効果が明らかになった。

【キーワード】

ピアノ, こどものうた, 弾き歌い, 指使い

1. 現状

領域「表現」では、幼稚園教育要領第2章2内容において、「(4) 感じたこと、考えたこと

などを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」¹⁾ また、保育所保育指針第3章(二)教育に関わるねらい及び

内容(イ)内容においては、「②保育士と一緒に歌ったり、手遊びしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。」²⁾などの記載に見られるように、音やリズム、音楽に関連する内容が取り上げられている。

そのため、保育者を目指す学生は、これらの保育を実践するために、音楽理論や歌唱、楽器演奏などに関する音楽の基礎的知識や技術の修得が必要である。本学初等教育科では、それらの技術のひとつであるピアノ演奏について、保育士養成課程「保育の表現技術」および幼稚園教員養成課程「教育課程及び指導法」の選択科目として、「器楽Ⅰ」(1年次前期)・「器楽Ⅱ」(1年次後期)・「器楽Ⅲ」(2年次前期)を開講している。「器楽Ⅰ」ではバイエルを中心とした器楽曲(1)、「器楽Ⅱ」前半では器楽曲(2)、後半ではこどものうたの弾き歌い(1)、「器楽Ⅲ」ではこどものうたの弾き歌い(2)を課題とし、個人レッスン形式で実施している。

本学学生のピアノ経験の現状は、入学試験に実技試験が課されていないこともあり、入学前のピアノ経験がきわめて少ないいわゆる初心者の学生が90%以上を占めている。そのため、これらの学生が、1曲でも多く「こどものうたの弾き歌い」を修得することを目標としている。しかし、学生の多くは、継続的なピアノ練習の経験の不足や演奏の完成度に対する教師との意識の違い等があり、なかなか弾き歌い演奏技術修得の成果を上げることができずにいた。そのため、教材や指導方法の改善、自主練習の促進が急務であった。以下は、その改善に向けての取り組みである。

2. 問題の所在と副教材作成の目的

本学では、各学期末に「器楽」科目担当者(専任教員3名、非常勤講師15名)による「採点会議」を開催している。会議の開催は採点の公平性や客観性の確認が主な目的であるが、担当した学生の状況やレッスン方法等への意見も出され、貴重な情報交換の場にもなっている。

その会議において、かねてより「こどものう

たのピアノ伴奏における指使いの指導に関する問題」が取り上げられていた。例えば、1.主に初心者学生の指使いが適切でないこと。2.指使いの指導に時間を要し、ピアノを弾く時間が短くなってしまう。3.事前に指使いを記入していても、部分記入のため、学生が留意せずに練習してくる。4.ピアノ伴奏用の指使いのマニュアルがほしい。等である。

初心者学生の不適切な指使いの要因については、さまざまな意見が述べられている。例えば、「緊張してピアノに向かうため、手に力が入り指先を伸ばしたまま演奏する学生が多い。指先を伸ばしたままでの演奏は、手が滑らかに動かない。」また、「演奏箇所を楽譜を見ることが精一杯で次の旋律を予測していないため、フレーズが捉えられず、その箇所のための指使いになってしまい、順次に指をつなげていくことができない。」等である。

このような初心者学生の状況下、これまででは、担当教員毎にその学生に応じての指使い指導を行ってきたが、ピアノ伴奏の効率的な指導を探求する上で、指使いの指導に要する時間の短縮は最優先課題であり、改善による効果も期待できることから、弾き歌いレッスンの効率化と自主練習の促進を目的に、独自の指使い案を付した副教材楽譜の作成に着手した。

3. 副教材作成チームの編成と活用の基礎理念

前述のような目的に基づき、平成21年2月、副教材作成のための「指使いマニュアル作成チーム」を組織した。筆者を全体監修とした6名のピアノ非常勤講師による編成である。チームの構成員は、本学で5年以上の弾き歌い指導の経験があり、初心者の指使いの特徴や問題点等を把握していることを条件とした。

また、本学では弾き歌いの正規教材として、『こどものうた200』『続こどものうた200』を使用し、掲載曲の中から50曲を課題曲としている。課題曲は、県内の保育現場対象の「年間に使用するこどものうた」のアンケート調査を参照し、使用頻度の有無と曲の難易度を考慮した

上で選曲している。これらの課題曲を対象とした「指使いサブノート」は、本学学生のみを対象とした副教材（非売品）であることとし、楽譜の複写使用については出版社の了承を得ることができた。

サブノート使用に際しては、学生の状況に応じて修正を加えながら活用していくことについて担当者間の意識の共有化を図り、一人一人に応じた有効な活用方法を模索して行くことを基礎理念とした。

4. 副教材「こどものうた課題曲 指使いサブノート」の作成

(1) 指使い考案時の基本方針

- 1)和音が無理なく押さえられること。
- 2)順次進行が円滑に行えること。
- 3)跳躍進行の場合、前後のメロディーの指使いも明記すること。
- 4)同音反復は、必ずしも指を変えなくて良い。
- 5)同様の音型や和音への数字の記載はできるだけ省略すること。

(2) 作成の流れ

- 1)「指使い原案の作成」平成21年2月
 - ・「こどものうた課題曲進度表 no. 1」（本学学生用課題曲50曲）を曲順に3チームで分担する。2人一組で担当曲の指使い原案を作成する。
 - ・NO. 1～NO. 22 橋本詠子・坂田裕美
 - ・NO. 23～NO. 36 金子美和・渡邊麻実子
 - ・NO. 37～NO. 50 平嶋美穂・北村 愛
- 2)「担当曲の相互確認」平成21年2月
 - ・指使い原案を交換し、全員が他の担当者案を確認する。相互確認により不適切と指摘された部分については、全員で修正案を検討する。
 - ・原案で2種類の指使いが付された曲についての適正を確認する。また、他の曲で2種類の指使いを記す方がよいと思われる箇所についても意見を交換する。
 - ・指使いの確定ができなかった部分につい

ては、担当者の説明による問題点の共有と他からの意見を参考にし、担当チームで再案を検討する。

- 3)「担当曲最終案の提出」平成21年3月
- 4)「監修者による指使いの最終確認」平成21年4月～8月
- 5)「こどものうた課題曲 指使いサブノート」の完成 平成21年11月（図1, 2）

図1. 指使いサブノート表紙



図2. 指番号を付した譜例



5. 副教材「こどものうた課題曲 指使いサブノート」の導入

平成21年11月から「こどものうた課題曲 指使いサブノート」の使用を開始した。サブノート使用については、次のような留意点を巻頭に掲載した。

【サブノートの使用について】

- (1) 付記された指使いは、曲の始まりや和音伴奏、曲の途中で指をくぐらせたりする箇所等で参考にすると、滑らかな演奏が期待できます。
- (2) 付記された指使いは、参考のための指使いですので、自分なりの弾きやすい指使いに変更してもかまいません。
- (3) 自分の弾きやすい指使いに変更した場合、適切でない場合は担当ピアノ教員による前後の指使いに応じた指導がありますので、その指示に従って下さい。
- (4) 指使いへの配慮は、演奏力のアップにつながります。十分このサブノートを活用して、よりよいピアノ演奏を目指して下さい。

以上のような説明にもかかわらず、導入当初は、記載の指使いを忠実に指導する講師、学生の不適切で自由な指使いを容認する講師など、副教材活用の基礎理念の共有が徹底できず、学生からは指導者によって取り扱い方が異なることについて苦情が寄せられた。

しかし、次第に各講師とも学生の状況に応じた指導が可能になり、副教材としての「指使いサブノート」の活用について共通理解が得られるようになった。そこで、サブノート導入効果の検証を目的に、平成22年1月と7月にピアノ非常勤講師対象に活用状況についてアンケート調査を実施した。

6-1. 副教材導入アンケートの実施

(1) 第1回調査

- 1)対象 本学ピアノ非常勤講師15名
- 2)実施日 平成22年1月
- 3)調査内容
 - ①サブノート導入の効果について
効果があった・どちらでもない・効果はなかった
 - ②効果があったと答えた方は、その内容について自由記述で回答下さい。
 - ③サブノートで改善してほしいところをお書き下さい。
- 4)調査結果 表1. 参照

(2) 第2回調査

- 1)対象 本学ピアノ非常勤講師 13名
- 2)実施日 平成22年7月
- 2)調査内容
 - ①サブノート導入の効果について、学生の進度別に回答下さい。
効果があった・どちらでもない・効果は

表1. 第1回導入アンケート結果

導入効果	効果があった 15名 (100%)	効果がなかった 0名 (0%)		
感想	自発的に練習してくる学生が増えた。	10名	67%	
	指使いの指導時間が短縮され、音楽表現についての指導が可能になった。レッスン時間が有効に使えるようになった。	9名	60%	
	不適切な指使いで練習してくる学生が少なくなった。指の運び方(指をくぐらせたり、かぶせたり)を意識するようになった。	7名	47%	
	弾き始めがスムーズになった。	4名	27%	
	課題表順に編集されているためスムーズに進めた。本が開きやすい。	4名	27%	
	ある程度弾ける学生は、とてもスムーズに取り組んでいた。	2名	13%	
	ある程度弾ける学生は、我流で弾いていることもあり、うまく活用できていなかった。	1名	7%	
	弾けない学生が、指使いを見る余裕がなく、我流で練習していた。	1名	7%	

表2. 第2回導入アンケート結果

導入効果	バイエル A 課題未終了者	効果があった 13名 (100%)	
	バイエル全曲終了者	効果があった 13名 (100%)	
	ソナチネ程度	効果があった 8名 (62%) どちらでもない 7名 (54%)	
感想	指使いの指導時間が短縮され、音楽的表現についての指導が可能になった。レッスン時間が有効に使えるようになった。	8名	62%
	難しい曲でもあきらめずに練習してきた。	7名	54%
	ある程度弾ける学生は、自分なりの指使いで演奏していた。	7名	54%
	初心者には、曲の始めの指使いに気をつけるだけで、無理な指使いをせずに曲をスムーズに仕上げることができた。	5名	38%
	指使いについての注意を受け入れやすくなり、フレーズ指導につながった。前もって指使いの指導ができるようになった。	4名	31%
	「どう弾いていいのかわからない」と言うのを聞かなくなった。	2名	15%
	楽しくレッスンできるようになった。大きな声で歌う学生が増えた。	2名	15%
	弾けない学生が、指使いを見る余裕がなく、我流で練習していた。	1名	8%

なかった

* 進捗参照 (バイエル A 課題未終了程度・バイエル全曲終了程度・ソナチネ程度)

②①の内容について、自由記述で回答下さい。

③サブノートで改善してほしいところをお書き下さい。

4) 調査結果 表2. 参照

6-2. アンケート調査結果と考察

第1回アンケート(表1)では、全員が「効果があった」と回答しているが、感想には、学生の進捗によってその活用状況が異なることが記載されていた。

主な感想内容は、「自発的に練習してくる学生が増えた。(67%)」「指使いの指導時間が短縮され、音楽表現についての指導が可能になった。(60%)」「不適切な指使いで練習してくる学生が少なくなった。(47%)」「弾き始めがスムーズになった。(27%)」等が挙げられ、これまでの問題点が改善されていることが認められる。

第2回アンケートでは、学生の進捗別の効果を調査した。表2によると、バイエル課題の学生には、全員が「効果があった」と回答しているが、ソナチネ課題の学生には、効果があった

(62%)・今までと変わらない(54%)との回答であった。このことから、経験者が独自のやりやすい指使いで演奏していることが推察できる。

主な指導の感想は、第1回同様「指使いの指導時間が短縮され、音楽的表現についての指導が可能になった。(62%)」が最も多く、その他に「難しい曲でもあきらめずに練習してきた。

(54%)」「ある程度弾ける学生は、自分なりの指使いで演奏していた。(54%)」「初心者には、曲の始めの指使いに気をつけることで、無理な指使いをせずに曲をスムーズに仕上げることができた。(38%)」「前もって指使いの指導ができるようになった。(31%)」等、学生の状況に応じた活用の記述が見られ、このような柔軟な活用ができるようになったことで、副教材の導入は、「こどものうたの弾き歌いレッスン」の効率化と自主練習の促進に効果的であったと考えられる。

さらに、「アンケート③改善内容の提案」を受け、1. ページ一覧表の掲載 2. 全ての歌詞の掲載 3. 最初の3曲は学生自身に指使いを考案させ、指使いに対する意識の向上を図る。の3点について改善した。

次に、学生の副教材活用状況の検証を目的に、下記のアンケート調査を実施した。

表3. バイエルA課題未終了者(41名)アンケート結果

①	役に立った 34名(83%) 役に立たなかった 1名(2%) どちらでもない 5名(12%) 未記入 1名(2%)		
②	参考にした 40名(98%) 参考にしなかった 1名(2%)		
③	曲の始め 7名(19%) 曲の途中 2名(5%) 全部 31名(76%) 未記入 1名(2%)		
④	変更した 30名(73%) 変更しなかった 10名(24%) 未記入 1名(2%)		
感想	指使いが全く分からなかったのでも参考になった。	9名	22%
	音が離れていたり、変化が激しい所、指が足りなくなる所で指をくぐらせたりするのが参考になった。	9名	22%
	指使いを見ながら弾くとスムーズに指を動かすことができた。	8名	20%
	出だしの音の指使いが参考になった。	5名	12%
	和音の指使いはとても参考になった。	1名	2%
	2通りの指使いが書いていたので、自分にあった番号を見つけやすかった。	1名	2%

図3. バイエルA課題未終了者

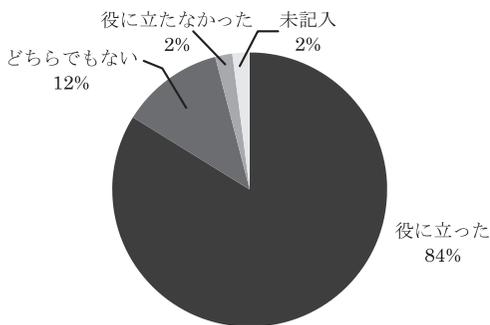


表4. バイエルA課題終了者(25名)アンケート結果

①	役に立った22名(88%) 役に立たなかった0名(0%) どちらでもない3名(12%)		
②	参考にした24名(96%) 参考にしなかった1名(4%)		
③	曲の始め 0名(0%) 曲の途中 7名(23%) 全部 17名(63%) 未記入 1名(4%)		
④	変更した(21名:84%) 変更しなかった(4名:16%)		
感想	弾きにくい所も指使いの番号で弾くと弾きやすくなった。	10名	40%
	出だしの音の指使いが参考になった。	4名	16%
	音が飛ぶときの指使いが参考になった。	4名	16%
	分からないときに参考になった。	3名	12%
	和音の指の移動が激しいときにとても参考になった。	1名	4%
	黒鍵を押さえる時の指が分からなかったので参考になった。	1名	4%

図4. バイエルA課題終了者

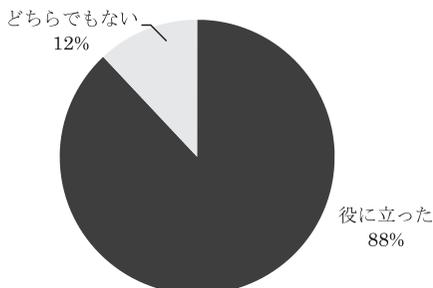


表5. バイエル全曲終了者 (25名) アンケート結果

①	役に立った 19名 (76%) 役に立たなかった 1名 (4%) どちらでもない 5名 (20%)		
②	参考にした 22名 (88%) 参考にしなかった 3名 (12%)		
③	曲の始め 5名 (20%) 曲の途中 10名 (40%) 全部 8名 (32%) 未記入 2名 (8%)		
④	変更した 22名 (88%) 変更しなかった 3名 (12%)		
感想	指を変えるタイミングや動きのある所の指使い、うまく移動できなかった時に参考になった。	15名	60%
	出だしの指使いが参考になった。	5名	20%
	和音の指使いが参考になった。	5名	20%
	指番号の通りに弾いたら弾きやすかった。	1名	4%

図5. バイエル全曲終了者

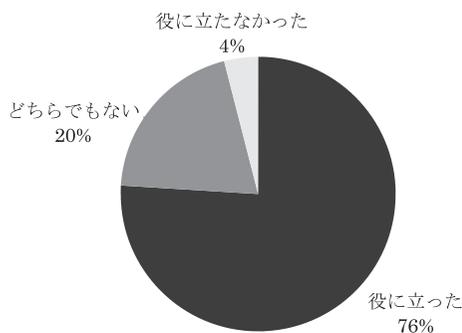
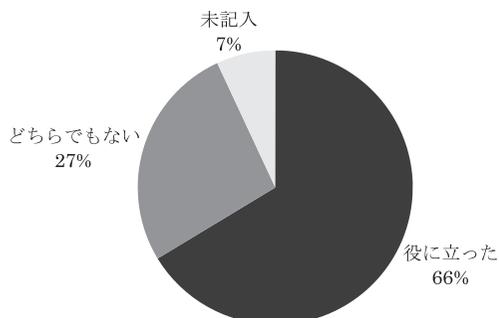


表6. ソナチネ程度 (15名) アンケート結果

①	役に立った 10名 (67%) 役に立たなかった 0名 (0%) どちらでもない 4名 (27%) 未記入 1名 (7%)		
②	参考にした 14名 (94%) 参考にしなかった 1名 (7%)		
③	曲の始め 0名 (0%) 曲の途中 7名 (47%) 全部 6名 (40%) 未記入 1名 (7%)		
④	変更した 15名 (100%) 変更しなかった 0名 (0%)		
感想	和音の指使いが参考になった。	6名	40%
	音が飛ぶとき、速い音符の時に参考になった。	1名	7%
	スムーズに動く指使いで弾きやすかった。	1名	7%
	分からないときに参考になった。	1名	7%
	無駄な動きを最小限にできた。	1名	7%

図6. ソナチネ程度



7-1. 副教材活用アンケートの実施

(1) 対象

平成22年度入学 初等教育科
保育・幼稚園コースの学生 106名

(2) 対象の内訳 「器楽Ⅰ」の進度別に調査

- 1) バイエル A 課題未終了者 (41名)
- 2) バイエル A 課題終了 (25名)
- 2) バイエル全曲終了 (25名)
- 4) ソナチネ以上 (15名)

(3) 実施日 平成23年 7月

(4) 調査項目

- ① サブノートは役に立ったと思いますか。
はい・どちらでもない・いいえ
- ② サブノートを参考にしましたか。
参考にした・参考にしなかった
- ③ サブノートのどんな部分を参考にしましたか。
曲の始めのみ・曲の途中・全曲
- ④ サブノートは参考にしたが、自分のやりやすい指使いに変更しましたか。
はい・いいえ
- ⑤ サブノートはどんな所が役立ちましたか。(自由記述)

(5) 調査結果 表3～6、図3～6参照

7-2. アンケート調査結果と考察

表3～表6、図3～図6の「器楽Ⅰ」進度別集計結果を見ると、どの進度においても「こどものうた課題曲 指使いサブノート」は、「役に立った」という回答で高い得点が得られている。サブノート参考の内訳は、「全部を参考にした」という学生がバイエル A 課題未終了者では76%、バイエル A 課題終了者では68%と多い。バイエル全曲終了者とソナチネ課題の学生では、「全部を参考にした」という回答よりも「曲の途中で参考にした」という回答の方が約7～8%多い。また、「記載の指使いの通りではなく、自分のやりやすい指使いに変更した」という学生がソナチネ程度では100%、そ

れ以外の進度においても73%～88%を占め、自由度の高い利用状況であったことが窺える。

このことにより、「一人一人の学生の状況に応じた活用方法の模索」という副教材活用の基礎理念に基づいた指導がなされていることが推察でき、平成21年11月の導入から1年以上が経過し、利用経験を重ねたことで、指導者側にも状況に応じた指導が可能になったと考えられる。

バイエル A 課題未終了者の感想では、「指使いが全く分からなかったのととても参考になった」と全てにおいてサブノートを参考にしたという記述が見られ、これらは他の進度にはない特徴的な内容である。その他に、バイエル A 課題未終了者、A 課題終了者、全曲終了者では、「指を変えるタイミング」「音が離れている所」「変化の激しい所」「出だしの音」等の箇所でも参考になったことが書かれているが、ソナチネ程度では「和音の指使いが参考になった」という感想が最も多い。

今回の調査により、学生の進度別によるサブノート利用状況が明らかになったことで、「こどものうた課題曲 指使いサブノート」は副教材として有効に活用されていることが確認された。

8. まとめ

副教材「こどものうた課題曲 指使いサブノート」に関する「導入アンケート」と「活用アンケート」を通して、指導者側においては「レッスン時の指使い指導の効率化」、学生においては「自主練習の参考資料としての有効利用」の現状を明らかにすることができた。これらの再確認のため、平成24年7月、ピアノ非常勤講師を対象に「もし指使いサブノートがなかったら」というアンケート調査を実施した。

その結果、全員から「あったほうがよい」という回答を得ることができた。また、指導の効率化の他に「練習する学生が増えた」「指の運びが滑らかになった」「フレーズの途中で音が切れることが少なくなった」「歌の指導も挿入

できるようになった」等、指導内容の質の向上に関する記述も見られ、副教材としての定着度も確認することができた。

また、同時に実施した「改善箇所アンケート」では、12曲についての指使い修正案が出され、提案者全員による検討の後、修正版（平成25年4月）を作成した。このような非常勤講師との共同作業による副教材作成は、指導方針や方法の理解、意識の共有化を図る有意義な作業であった。共に学生指導に携わるものとして、今後も継続して協力体制を整えて行きたいと考えている。これらの結果をふまえ、副教材のより有効な活用方法の模索、教材および課題の改善を行いながら、さらに本学の器楽教育の質の向上を図る考えである。

付記

本稿は、平成25年度全国保育士養成協議会第52会研究大会ポスター発表「こどものうた弾き歌い指導における副教材活用の試み」を加筆修正したものである。

また、本研究を遂行するにあたり、本学保育科准教授藤田光子氏、ピアノ非常勤講師金子美和氏、渡邊麻実子氏、北村愛氏、橋本詠子氏、平嶋美穂氏、坂田裕美氏にご協力いただきましたことをここに記し、感謝の意を表します。

引用文献

- 1) 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』（平成20年10月）、2008、フレーベル館
- 2) 厚生労働省『保育所保育指針』（平成20年告示）、2008、フレーベル館

参考文献

- 1) 小林美実編、『こどものうた200』、チャイルド本社、2011
- 2) 小林美実編、『続こどものうた200』、チャイルド本社、2011
- 3) 仲嶺まり子、「保育者養成における「器楽」科目の開講手法に関する一考察 -本学における開講時期改定の試みを通して-」、『別府大学短期大学部紀要』第32号、2012、p152

- 4) 三好優美子、「子どもの歌のピアノ伴奏における運指指導の取り組み～「ミソラド=1235ポジションの実践」を通して～」、『日本音楽教育学会第42会大会研究発表N-5資料』、2011
- 5) 木暮朋佳、「コードを使ったピアノによる「弾き歌い」指導法の試案～不得意な者にも弾ける者にも対応させて～」、『全日本音楽研究会大学部会会誌』、2010、pp. 12～20